

# 楷

第五一号

岡山大学  
附属図書館報  
OKAYAMA UNIVERSITY  
LIBRARY BULLETIN

KAI

No.51

2010

OCTOBER



<写真>

いかなご

海魚ナリ大サ三四寸

身細シ常ニ群ヲナス

魚ナリ賤者食之

関東ニテカマスゴト云

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」より（岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵）

## — 目 次 —

- 大学図書館の IT 革命（鹿田分館長 杉本朋貞）…………… p. 2
- ダールをあなたに Read Me! Book6（社会文化科学研究科教授 松本明子）…… p. 4
- 学生と館長・分館長による懇談会（学術情報サービス課）…………… p. 5
- 「岡山大学学術成果リポジトリ」のリニューアルについて（情報管理課）…… p. 6
- マスカット …………… p. 7
- 池田家文庫絵図展のお知らせ、CiNii・今日の診断 Web 版導入について、ほか
- 会議・研修・編集委員会から …………… p.14

# 大学図書館の IT 革命

杉本朋貞

生命科学を研究している私にとって、図書館利用は日常の研究生活のなかで、もっとも大きなエネルギーを必要とする作業のひとつです。自室のコンピューターからデータベースを使って論文を検索し、電子ジャーナルから論文をダウンロードし、眼を通すというような作業が日課の中に組み込まれています。一方、物理的に図書館を訪れて図書を探し歩くというようなことは、過去10年間どんどん少なくなってきました。これは現在、医療系や自然科学系の研究者の多くに共通したものではないでしょうか。しかし、理系の研究者にとって、図書館の利用形態が現在のような状態になるまでには、かなりの時間がかかりました。そこで、「楳」の紙面をお借りして、大学図書館の利用形態の変遷について、私の個人的な経験を記録しておきたいと思います。

私は1970年に大阪大学歯学部に入學しました。教養科目では、ほとんどの学生が指定された教科書を各自、生協で購入していました。また、歯学部の専門科目はすべてが必修で、指定された教科書は同学年の学生60名が全員同時期に利用することになるため、必要なものを図書館から借り出して済ませることは困難でした。講義ノートだけで何とかなる科目も少なくありませんでしたが、必要な指定教科書は蔵書印でも捺して一生持つておくつもりで購入しました。そんなわけで、宿題のレポートを書くとき以外は、あまり大学の附属図書館を利用した記憶がありません。

大学の附属図書館を日常的に利用するようになったのは、1976年に大学院に入學してからのことです。入學後の半年は、先輩の実験の手伝いが日課の大部分を占めていましたが、その合間に研究室の抄読会の当番をこなすために、初めて専門誌に掲載されている論文というものを読むことになりました。その後、学年が進み、自分の研究テーマに沿って図書館を利用することをおぼえました。最初は、先輩から紹介された論文を読むだけですが、医学英和大辞典には出てこないような難しい用語が多く、苦勞しました。そこで参考文献の孫引き、そのまた孫引きというような、超初心者向けの文献検索です。書架の間を右往左往し、集めた雑誌を借り出してコピーしました。コピーを持ち歩き、研究室、自宅、通学電車のなかで読みました。勉強熱心ではなく、読むのが遅すぎて時間が足りなかっただけのことです。

実験も軌道にのりはじめた頃、ようやく自分が必要としている知識を發掘するために論文を探すということをおぼえました。Current Contents (CC)、Index Medicus (IM)、Excerpta Medica (EM)、Science Citation Index (SCI) といったインデックスを使っていました。これらは当時すべて紙媒体で、キーワードのカテゴリー別に、適当なインデックスや、巻を選び、ページを繰って目ぼしいタイトルを探します。IM、EM、SCIは年度ごとに製本され、どれも使用頻度の高い過去20年程度の巻が書架にならんでいたように思います。どれも1年分で10センチ近い厚みがあり、コンピューターとちがって重ね合わせ検索や絞込み検索ができないため、何度もページを繰りなおします。目ぼしいものをみつければ、その都度書庫に入って雑誌を探し、論文に眼を通してはインデックスに戻るといった繰り返しです。過去約1年以内のインデックスは製本されておらず、新刊雑誌の論文タイトル一覧表(CC、毎月1~2回程度発行される)を利用します。こんな状態ですから、文献検索は体力勝負の格闘技のような有様で、随分時間もかかりました。実験の合間を縫って、といっても、一旦図書館に行けば1時間や2時間は、あっという間に過ぎてしまいました。

図書館のユーザーとして、IT 革命の兆しを初めて感じたのは 1981 年から 3 年間の留学中のことでした。当時はまだ、留学先の米国国立衛生研究所 (NIH) でも論文執筆にワープロを使う人は少なく、ほとんどの人が IBM のメモリーつきタイプライターを使っていました。折角のチャンスなので、National Library of Medicine (NLM) も見学しましたが、日常的な文献検索や図書の閲覧、借り出しには同じキャンパス内にある別の図書館を利用していました。当時、NLM では既に Medline が稼動していましたが、なにしろ個人用のコンピューターというものがないので、ユーザーが図書館に出向き、キーワード入力を含め、何から何まで専門のオペレーターに代行してもらおうという方法で、隔靴搔痒、すぐに嫌気がさしてしまいました。また電子ジャーナルというものがないので、結局は検索結果のプリントアウトを手に書架の間を歩き回り、冊子体の雑誌を探し出してコピーするという作業は昔と変わりません。また、新しい論文がデータベースに収録されるには 1 年以上の時間がかかるため、新刊については依然として紙ベースの CC を使った手動検索でした。

1980 年代半ばに帰国した頃から、日本でもパソコンが普及し始めましたが、大阪大学ではコンピューターによる検索は図書館員が代行していたため、結局のところ、手馴れた紙ベースの検索を続けていました。このころ、大阪大学ではキャンパス移転のため、歯学部と医学系図書館が切り離され、電車と徒歩で往復 3 時間近くかかるようになりました。そこで 2 週に 1 回程度、研究室に行かず、図書館で過ごす日を設けて時間を節約しました。手元に置きたいもの以外はコピーせず、なるべく閲覧室で論文を読み、論文の原稿も図書館で書くことにしました。

私が赴任する以前の岡山大学でも、状況は同様だったようです。1979 年にはコンピューターによる検索システムが導入されたそうですが、図書館員による代行検索に頼っており、1990 年によく CD-ROM を用いて、ユーザーが自分の手で、図書館に設置された端末を操作しての検索ができるようになったそうです。私は 1991 年に岡山大学に赴任しましたが、以前と同様、紙ベースのインデックスを使い、週 3~4 時間を図書館で過ごしていました。コンピューターを使わなかった理由は、数少ない端末を長時間独占できなかったことと、データベースの整備が不十分で、論文のアブストラクトが欠落しているものも多かったからです。

図書館の利用形態が現在のものに近づいたのは、1995 年を過ぎてからのことです。このころ、岡山大学では学内 LAN が設置され、Ovid が導入され、まもなく PubMed も無料公開されました。これで、他のユーザーに気兼ねなく、自分専用のコンピューターで検索ができるようになったわけです。検索を自室で行うため、図書館では雑誌を借り出してコピーするだけになり、図書館の利用時間は大幅に短縮しました。2000 年頃には雑誌の電子化がすすみ、2004 年には雑誌の講読形態が冊子体から電子版にシフトしました。論文の検索だけでなく、論文の本体が自室の端末でダウンロードできるようになり、図書館に出向くことはさらに少なくなりました。

以上、大学図書館を利用してきた 40 年を振り返ってみると、随分長い準備期間を経て現在のわたちが出来上がってきたものだという感慨が湧いてきます。ところで、今では失われた私の楽しみに触れておきます。図書館でまとまった時間を過ごしていた頃、書架にならんだ本を眺めるのがよい息抜きになりました。とくに、1 日中図書館にこもるとき、休憩時間をと称して、いろいろな分野の本を濫読しました。それが大学人としての私にとって、どれほどの役に立ったかはご想像にまかせます。IT 革命は、研究をサポートするための検索システムや電子ジャーナルの利用という点で大きな進歩をもたらしましたが、研究に特化したものばかりでなく、副次的なサービスを提供する多様な方向性を模索してゆくのが大学図書館の使命だと感じています。

(すぎもと・ともさだ 鹿田分館長)

## ダールをあなたに～Read Me! Book.6～

松本明子

学生さんへの推薦図書について書くという図書館からの依頼をハンガリーのペーチ大学での国際英語歴史言語学会議に出席して戻った翌日のパソコンメールで見ました。本当のことを言いますと、専門書以外に軽い本を買ってみたり、今まで関わって来ない漫画の分野にも手を出していますが、のめりこむほどには買って読んだりはしていませんでした。岡山大学に赴任して11年目ですが、さて困ってしまいました。音楽を聴いたり、美術館で絵を見たりはしますが、最近では本屋というところに近づかなくなっていましたし、本屋自体がなくなってきました。学生が手に取りやすい本と言えば、教養の英語のクラスで、何年か使っていましたロアルド・ダールの短編があります。以前、彼の作品からデータをとっていたこともあり、それについての自分の本も現在、企画していて、絵入りの絵本みたいな本です。まだ出ていないのでここで宣伝できないのが残念です。彼の全作品を買って読んでいますし、2008年の国際中期英語会議がケンブリッジ大学であり、それに参加してから ロンドンからダールミュージアムと彼のお墓に電車と、工事のために途中からバスの代行輸送で乗り換えて行きました。何かをはじめるには背中を押すものが必要でした。ダールの英語は論文で使う際のデータに使ってきました。2008年のPeter Lang社から出しました私の著書にも歴史的アプローチをとる前に、最初に20世紀の英語の実態としてダール作品からデータを示してから歴史的なものに入りました。ダールの作品は日本では最近、評論社から20巻プラス別巻2冊の22冊の翻訳が出ています。ダールの何をテーマにするかと言いますと、「人と動物」です。ダールの作品で、動物に関わるものは子ども向き作品にも大人向き作品にもあります。例えば、彼の書いた作品で「豚」という短編があります。これは主人公が生まれた時の時に、両親が警官に間違っって撃ち殺され、肉食主義者のおばに引き取られて全く肉を食べないで育ちますが、おばが亡くなり、彼はレストランで豚肉を食べます。そのおいしさに惹かれて豚の屠殺場に行き、彼が豚肉となって行く様が描かれています。人間が豚になる話です。ダールの脚韻詩『こわい動物』の「ブタ」は勉強好きのブタが自分の命は何のためにあるかを考えつめ、農夫がえさを持ってきたところを自分が殺される前に農夫を食べてしまいます。短編「白鳥」では、少年がライフルを親に買い与えられ、鳥で試し打ちをして歩き、バードウォッチングしていたクラスの優等生をみつけて、彼とその仲間の殺した白鳥の羽を腕に付けさせ、木から飛ばさせ、彼は自宅の庭に落ちます。その飛ぶ際に彼は「光」をみます。「白鳥」の中に、この優等生とダールの戦争体験の彼自身の肉声が重ねあわせられているものがここで聞かれます。「極限状況において、何があっても打ち負かされない人」という言葉です。ダールはヘミングウェイと親友だったと聞きますが、ヘミングウェイの短編「打ち負かされない人々」を思い起こさせられます。ダールの英語の元気さと、作品はちょっと残酷でクールでからっとしているところが私は気に入っているところです。

(まつもと・めいこ 社会文化科学研究科教授)

※ロアルド・ダール コレクション (全22冊) : 配架場所 新館4F 933.9/D

# 附属図書館長・分館長と学生の懇談会

## 学術情報サービス課

附属図書館では、学生のみなさまの大切な学習場所の一つである図書館を利用者の視点でもっと使いやすく、気持ちよく利用していただくための取り組みとして、平成18年度より「附属図書館長と学生の懇談会」の場を設けています。この懇談会で出された要望で実現したものとして、開館時間の延長、夏期空調時間の延長、ブックハンティングの実施、飲物が利用できるアメニティコーナーの設置、学習室の増設及び利用時間の延長などがあります。

### ○平成22年度第1回鹿田分館 分館長と学生の懇談会

日時：7月6日（火）18：00～19：00

場所：管理棟6F 第7カンファレンスルーム

参加者：学部学生13名（医学科2名、歯学科6名、保健学科5名）、図書館7名

昨年度から始まった分館長懇談会を7月に開催しました。参加していただいた学生の方々からは将来の鹿田分館改修案、今年度開催のブックハンティング（10/18～10/29実施）、土曜の開館時間等についてたくさんの貴重なご意見をいただきました。要望のあった、シラバス掲載図書1冊貸出禁止、館内掲示の見直し、冷房時間の見直し等については実現できることから対応しているところです。

### ○平成22年度第1回中央図書館 附属図書館長と学生の懇談会

日時：7月7日（水）15：00～16：55

場所：附属図書館大会議室

出席：学生5名 図書館4名 ほか陪席

今年度から3ヵ年で全学部・研究科学生の意見を聞く方法に変更し、今回は法学部、経済学部、社会文化科学研究科（法学系・経済系）、法務研究科学生の出席を附属図書館運営委員に依頼しました。図書資料、開館時間、設備のあり方等について活発なご意見をいただき、カウンター返却箱の設置、館内掲示の変更等対応できるところから見直しをしています。



詳細については附属図書館ホームページ「附属図書館長と学生の懇談会」をご覧ください。

URL：<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/students/index.htm>

今後も引き続き学生との懇談会を開催していく予定です。多数の方のご参加をお待ちしています。日常のご利用でお気づきのこと、ご意見がありましたら意見箱に入れていただくか、カウンター職員にお伝えください。

# 「岡山大学学術成果リポジトリ」のリニューアルについて

## 情報管理課

附属図書館では本学の研究成果を広く社会に発信するため、平成18年度より「岡山大学学術成果リポジトリ」を運営してきましたが、更なる発信力強化を目指して本年8月1日にリニューアルを行いましたので、ここに新リポジトリの概要をご案内いたします。

### 1. 名称について

日本語名称は従来どおり「岡山大学学術成果リポジトリ」のままですが、新たに英語名称を「Okayama University Science Achievement Repository」、略称を「OUSAR」としました。

### 2. URL について

新リポジトリの URL は以下のとおりです。

<新リポジトリ URL> <http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/>

このように正式 URL は従来から一新しましたが、旧 URL でも従来どおりアクセス可能にしています。また、必要に応じてアクセス転送（リダイレクト）処理も行っていますので、ブックマーク等の変更は不要です。

### 3. デザインと機能について

本学のイメージカラーであるベンガラ色を基調とし、トップページには本学関係雑誌のバナーを配して、より見やすく使いやすいデザインを指向しました。また、検索機能、一覧（ブラウズ）機能とも一層の充実を図りました。

### 4. 本学研究者総覧との連携について

新機能として本学研究者総覧（<http://soran.cc.okayama-u.ac.jp/>）との相互連携を実装しました。新リポジトリ上に登録されている論文の著者が本学教員である場合、著者名をクリックすると研究者総覧上の当該教員のプロフィールが表示されます。また、研究者総覧上の各教員のプロフィールに掲載された論文がリポジトリに登録されている場合、論文をクリックするとリポジトリ上の論文情報（本文へのリンクを含む）が表示されます。

末筆ながら、この場をお借りして研究成果をお寄せいただいた先生方、今回の更新にあたり物心両面で多大なるご支援をいただいた本学情報統括センターおよび総務課の関係各位、その他本学リポジトリの運営にご協力いただいた皆様に深謝申し上げますとともに、今後も変わらずご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げます。



# マスカット

## 平成22年度 池田家文庫絵図展「絵図にみる中国四国地方の城下町」のお知らせ

岡山大学附属図書館と岡山市デジタルミュージアム主催による池田家文庫絵図展ならびに講演会を今年も開催いたします。今年度のテーマは「絵図にみる中国四国地方の城下町」です。

岡山をはじめ、現在の県庁所在地や地域の拠点的な都市には城下町をルーツとする都市が多く見られます。江戸時代以降の城下町は、政治を担当する武士が集住する行政都市としての役割と、地域流通の中心的な都市としての役割をあわせもっていました。

一方で地域の自然景観、社会状況に対応して地域ごとに個性的な城下町ができあがりました。江戸時代、城郭を持つ城下町は80ほどありました。今回の展覧会では、岡山大学附属図書館が所蔵する池田家文庫の中から、中国四国地方の城下町を描いた絵図をご紹介します。入場料は無料ですので、ぜひご来場ください。

会 期：平成22年11月16日（火）～11月28日（日）  
（休館日：11月22日（月））

開館時間：午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）

会 場：岡山市デジタルミュージアム 4階企画展示室

入 場 料：無料

### ○オープニングトーク

日 時：平成22年11月16日（火）  
午前10時～午前10時30分

場 所：岡山市デジタルミュージアム 4階企画展示室

講 師：倉地克直（岡山大学附属図書館長）

### ○記念講演会：「デジタルマップで甦る城下町」

日 時：平成22年11月20日（土）  
午後1時30分～午後3時30分

会 場：岡山市デジタルミュージアム 4階講義室

講 師：平井松午先生（徳島大学大学院 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

備 考：聴講無料、予約不要、先着80名まで

平井 松午 先生は歴史地理学をご専門とし、一貫して地域の成り立ちやその変容過程について研究されるとともに、近年は近世絵図を用いて歴史的景観の復原も手がけられています。今回は、洲本城下町に関する絵図などを使い、GIS（地理情報システム）というデジタルマッピング手法を用いて、戦国城下町や近世城下町の歴史景観の分析・復元などを紹介いただきます。



また、今年度も昨年に引き続き中国四国地区国立大学図書館貴重資料等共同展示を同時開催いたします。こちらは池田家文庫絵図展の会場内での同時展示になりますので、一緒にお楽しみいただければと思います。

### **CiNii (サイニイ) の定額許諾契約を開始**

CiNii は国内の学術論文情報を検索できるデータベースで、従来から無料で検索を行うことができましたが、7月1日以降は一部の有料論文について本文を入手できるようになりました。

本文の入手が可能な雑誌名・巻号については「定額許諾刊行物一覧」でご確認ください。

[http://ci.nii.ac.jp/pkgtyp/society/charge\\_ja.html](http://ci.nii.ac.jp/pkgtyp/society/charge_ja.html)

※「有料公開」の論文は本文閲覧ができません

CiNii は次の URL でご利用いただけます。 <http://ci.nii.ac.jp/>

### **「今日の診療 Web 版」の導入報告**

医学系のレファレンスデータベース「今日の診療 Web 版」を平成 22 年 8 月から導入しました。同時アクセス数は 3 で、全学で利用できます。

「今日の診療 Web 版」は、最新の研究成果に基づく効果的な治療法の情報を検索でき、解説本文のほか約 1 万 2 千点の図表や写真にアクセスできます。

収録書籍 (平成 22 年 9 月現在) は、「今日の治療指針 2010」、「今日の治療指針 2009」、「今日の診断指針 第 6 版」、「今日の整形外科治療指針 第 5 版」、「今日の小児治療指針 第 14 版」、「今日の皮膚疾患治療指針 第 3 版」、「救急マニュアル 第 3 版」、「医学書院 医学大辞典 第 2 版」、「新臨床内科学 第 9 版」、「内科診断学 第 2 版」、「治療薬マニュアル 2010」、「臨床検査データブック 2009-2010」、「臨床中毒学」です。

### **新しくはじまる図書館サービス =マイライブラリ=**

8 月末より岡山大学学生向けのサービスとして、図書館の情報に関する個人のページである「マイライブラリ」がご利用いただけるようになりました。マイライブラリを利用すると貸出状況照会、図書館からの連絡事項の確認ができ、中央図書館貸出中の資料の予約 (受取は中央図書館でのみ) ができます。マイライブラリは学内外からアクセスし、利用することが可能です。今後便利な機能を追加していく予定です。

マイライブラリのログイン方法、ご利用方法はこちらから

<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/riyou/pdf/mylibrary.pdf>

ログイン ID パスワードはこちら (学内限定サイト)

<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/campusonly/mylibrary-id.pdf>

岡山大学 IC 学生証をお持ちでない方は別途申請が必要です。ログインできない場合は中央図書館貸出カウンターにお問い合わせください。

なお、分館の資料に予約をかけることはできません。鹿田分館配架資料は従来通り、鹿田分館サービスカウンターにてお申込みください。



## 寄贈絵画について

教育学部卒業生の 戸田英二 氏のご遺族から絵画「葎(平福)」の寄贈があり、新館2階エレベーターホールに掲げておりますのでご鑑賞ください。

## 岡山共同リポジトリ事業の参加機関が増えました

「岡山共同リポジトリ」は県内研究機関の研究成果をより多くの方に活用していただくことを目的とした事業で、附属図書館内に設置したサーバ上に各機関の研究成果を蓄積してインターネット上で無料公開しています。

本事業は平成21年4月に環太平洋大学、中国学園、津山工業高等専門学校との3機関の参加によりスタートしましたが、本年7月より新たに就実大学・就実短期大学が加わりました。

各大学の研究成果は Google 等での検索のほか、以下の URL からご覧いただけます。

- ・ 環太平洋大学研究成果リポジトリ <http://repository.ipu-japan.ac.jp/>
- ・ 津山工業高等専門学校学術成果リポジトリ <http://repository.tsuyama-ct.ac.jp/>
- ・ 中国学園リポジトリ <http://cur-ren.cjc.ac.jp/>
- ・ 就実学術成果リポジトリ <http://repository.shujitsu.ac.jp/>

## 平成21年度文化庁委託事業について

附属図書館では、平成21年度文化庁委託事業「全国の博物館・美術館等における収蔵品デジタル・アーカイブ化に関する調査・研究」として、池田家文庫の絵図類(城下図等)のデジタル・アーカイブ化を通じて、その多目的利用についての研究、画像作成の為の入力機器・入力法の研究、及びインターネット配信の技術的手法などの研究を行いました。

その結果、高精細デジタル画像を作成する仕組みとそれを利用して、インターネット上に配信することを確認できました。そして、これを教育・研究用に利用する仕組みを研究できました。

## 図書館グループ制について

10月1日より事務部にグループ制が導入されました。

グループ制は従来係を基本に行ってきた業務を大括り化し、効率化することを目的とするものです。

- ・ 情報管理課は総務的業務を行う総務グループ、契約・支払い等の調達業務を行う受入グループ、目録・資産管理等の業務を行う基盤グループで構成。
- ・ 学術情報サービス課は利用者へのサービスの向上のため、フロアサービスグループと利用者支援グループとし、鹿田分館は情報管理課から学術情報サービス課に移行し、鹿田分館グループとしました。資源植物科学研究所分館は少人数のためグループ制は不採用です。

## 資源植物科学研究所分館一般公開について

本年も2010年5月15日(土)に資源植物科学研究所の一般公開が行われました。今回で9回目となりました。研究所で行われている研究内容を紹介するもので、383の方が来所されました。図書館でも、開催中の企画展示「貴重書でみる江戸・明治の食」に、ダーウィン自筆の献辞がある図書や朝顔図譜などの貴重書を加えて、展示しました。また、クイズラリーの問題も展示物から出題されました。約250名の方が来館され、貴重図書の絵ハガキを来館者全員にプレゼントしました。

### 資源植物科学研究所分館企画展示について

資源植物科学研究所分館では、7月20日（火）～9月30日（木）に、企画展示「貴重書で見る東西の植物画 多年草編」を開催いたしました。所蔵している貴重図書に広く触れていただくため、昨年度からさまざまな展示を企画していますが、第3回目として、今年度からの資源植物科学研究所（略称 植物研）への名称変更を記念して、植物に関する資料から植物画の展示を企画しました。今回はキクやユリなどの多年草を取り上げました。内容は、写真による記録がなかった時代に、植物の特徴を正確に描写した植物画について、貴重図書の現物展示と合わせて、色鮮やかな植物画の図版を写真パネルで紹介するものでした。



### オープンキャンパス報告

8月6日（金）、7日（土）のオープンキャンパスに合わせ、附属図書館中央図書館では以下の企画を実施しました。

#### ●教科書展示（玄関前）

シラバスに掲載されている、授業で使用する教科書を展示しました。

#### ●池田家文庫絵図複製展示（新館2Fロビー）

附属図書館で所蔵している池田家文庫から5点の複製を展示し、1点は上を歩いて閲覧できるように床敷きにしました。

2日間で延べ2,033名の高校生や保護者の方にご来館いただきました。鹿田分館については、同様に88名の方にご来館いただきました。



教科書展示の様子

### 岡山大学公開講座「池田家文庫絵図をもって岡山を歩こう」報告

本年度前半が終了しました。第一回岡山大学社会文化科学研究科教授倉地克直先生による講演会「池田家文庫城下町絵図について」（平成22年5月29日（土））。第二回岡山市教育委員会・乗岡実氏による「絵図をもって岡山城を歩こう」（平成22年6月5日（土））。第三回岡山市教育委員会・乗岡実氏による「絵図をもって城下町を歩こう」（平成22年9月25日（土））。計三回で139名の方に参加いただきました。昨年の参加者127名を既に超えており、好評を得ています。

### 平成22年度「池田家文庫 子ども向け岡山後樂園発見ワークショップ」（夏）報告

平成22年度第1回目（通算第8回目）の「池田家文庫 子ども向け岡山後樂園発見ワークショップ」を平成22年7月11日（日）に開催いたしました。今回も32名の児童生徒とその家族をあわせ

て26世帯76名とたくさんのご参加をいただきました。

本ワークショップは、岡山大学教育学部の授業「総合演習D」受講の学生17名がスタッフとなり、率先してワークショップの内容検討、資料作成、当日の実践、後日の反省会などを行いました。当日はあいにく小雨のぱらつく天気でしたが、学生による紙芝居上演後、学生と参加者は8つの班に分かれ、オリエンテーリングの手がかりとなる巻物や、絵図の一部が描かれたカードをヒントにし、現在の後楽園の中を歩きました。参加した記念に、後楽園の借景をバックに鶴鳴館の前で記念撮影をした写真を修了証に貼り、オリエンテーリングのヒントとなったカードのカルタをお土産にしました。ワークショップの最後には、学生と子どもたちで巡った場所を振り返りながら、カードカルタで楽しく遊んで終了となりました。

### オリエンテーション・ガイダンス（中央図書館）

本年4～5月に以下の通り実施し、延べ1,464名の方にご参加いただきました。

#### ＜図書館オリエンテーション＞

実施日：4月2日～5月24日 実施回数：41回 参加人数：1,399名

内 容：中央図書館利用方法・規則の概説、蔵書検索のデモ、館内ツアー

#### ＜新任教員向け図書館オリエンテーション＞

実施日：4月2日～4月5日 実施回数：2回 参加人数：16名

内 容：中央図書館利用方法・規則の概説、利用可能サービス等について

#### ＜文献入手支援講習会＞

実施日：5月12日～5月19日 実施回数：7回 参加人数：49名

内 容：文献探索概説、参考文献リストの見方・書き方、雑誌論文の探し方、データベースの使い方、学外資料の取寄せについて、著作権について

### オリエンテーション・ガイダンス（鹿田分館）

鹿田分館では、4月に各学科の新入生オリエンテーションの時間をお借りし、図書館オリエンテーションを行いました。内容は利用案内、時間外利用講習を主に、10分から20分程度の説明を行い、計403名の方にご参加いただきました。

また、大学院医歯薬総合研究科博士課程の新入生の方を対象として、基礎講義時間の半分をいただき、図書館利用案内に加え、文献検索の基礎についても説明しました。（43名）

この他、大学病院で実習を行う順正高等専門学校の学生を対象に利用案内、館内ツアーを行いました。（26名）

### オリエンテーション・ガイダンス（資源植物科学研究所分館）

資源植物科学研究所の新入生（49）対象にオリエンテーションを、農学部の新入生（5/10、5/17）対象に見学会を、それぞれ実施しました。内容は図書館の概説と利用案内です。館内案内および展示資料の説明をしました。約130名の方に参加いただきました。

### 平成22年度前期文献検索・データベース等講習会開催報告（鹿田分館）

5月から7月にかけて、文献検索・データベース等講習会を計18回行い、178名の方にご参加いただきました。今年は昨年度より実施回数を増やし、昨年度要望のあったレベル別講習会や同内容で

複数回開催など行いました。

後期も引き続き講習会を行っております。詳しくはホームページをご覧ください。

URL : <http://okalibliteracy.blogspot.com/2010/08/blog-post.html>

No.	講習内容	日	時	講師	人数
1	文献検索基礎 (看護学分野)	4/26(月)	17:00~18:00	図書館 職員	9
2	文献検索基礎 (生命科学全般)	5/10(月)	18:00~19:00	図書館 職員	11
3	PubMed 基礎	5/17(月)	18:00~19:00	図書館 職員	21
4	EndNote 基礎	5/24(月)	18:00~19:00	図書館 職員	20
5	医中誌基礎	5/25(火)	18:00~19:00	図書館 職員	12
6	文献検索基礎 (看護学分野)	5/31(月)	18:00~19:00	図書館 職員	12
7	CINAHL 基礎	6/7(月)	18:00~19:00	図書館 職員	8
8	Web of Science, JCR, EndNote Web	6/10(木)	18:30~20:00	トムソン・ロイター	16
9	EBM Reviews	6/14(月)	18:00~19:30	Ovid	10
10	学生向け講習会	6/17(木)	18:00~18:45	図書館 職員	2
11	PubMed 基礎(2回目)	6/18(金)	17:00~18:00	図書館 職員	4
12	CINAHL 応用	6/21(月)	18:00~19:30	EBSCO	4
13	医中誌基礎(2回目)	6/25(金)	17:00~18:00	図書館 職員	3
14	ScienceDirect	6/28(月)	18:00~19:30	エルゼビア(ゼファー・ ビヨンド)	15
15	SpringerLink	6/30(水)	18:30~20:00	Springer	4
16	PubMed 応用	7/5(月)	18:00~19:00	図書館 職員	15
17	EndNote 基礎(2回目)	7/16(金)	17:00~18:00	図書館 職員	2
18	CINAHL,EndNote Web	7/26(月)	18:00~19:00	図書館 職員	10
	合計				178

**教員からの寄贈図書リスト**

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

**〈中央図書館〉※教員業績コーナー（本館1階）に配架**

稲田孝司 [名誉教授]

恩原1 遺跡 —— 恩原遺跡発掘調査団, 2009 (F217.5/O)

小川秀樹 [国際センター]

学術研究者になるには：人文・社会科学系 —— ペリカン社, 2010 (002/O)

清水耕一 [大学院社会文化科学研究科]

地域統合：ヨーロッパの経験と東アジア —— 岡山大学社会文化科学研究科, 2010 (333.7/S)

堤 良一 [大学院社会文化科学研究科]

The structure of language : views from Asian languages —— Okayama Univ., 2006 (F802.2/S)

藤内和公 [大学院社会文化科学研究科]

ドイツの従業員代表制と法 —— 法律文化社, 2009 (366.56/T)

春名章二 [大学院社会文化科学研究科]

イノベーション、R&D spillover and oligopolies —— 岡山大学経済学部, 2009 (336.17/H)

法学部

法学と政治学の新たな展開：岡山大学創立六十周年記念論文集  
—— 岡山大学法学会, 2010 (320.4/H)

**〈鹿田分館〉**

片岡英樹 [医学部]

NASA SP-7084 1998 ハンドブックに学ぶテクニカルライティング  
—— 京都大学学術出版会, 2009 (507.7/MC)

(敬称略五十音順)

**岡山大学出版会からの寄贈図書リスト**

御留張御船手 —— 倉地克直, 岡山大学出版会, 2010 (217.5/I)

湖水爆発の謎を解く：カメルーン・ニオス湖に挑んだ20年  
—— 日下部実, 岡山大学出版会, 2010 (453.8/K)

昆虫の低温耐性：その仕組みと調べ方  
—— 積木久明, 田中一裕, 後藤三千代(編), 岡山大学出版会, 2010 (486.1/K)

(敬称略タイトル五十音順)

## 会議

### ◆学外

- 22.4.15 第58回中国四国地区大学図書館協議会  
(於 徳島)
- 22.4.16 第37回国立大学図書館協会中国四国地区協会  
総会(於 徳島)
- 22.5.14 岡山県図書館協会第1回理事会  
(於 岡山県立図書館)
- 22.5.28～29 日本医学図書館協会第81回通常総会  
(於 日本歯科大学)
- 22.6.4 中国四国地区国立大学学術情報・図書館・情報  
環境部長等会議(於 広島大学図書館)
- 22.6.7 岡山県図書館協会総会(於 岡山県立図書館)
- 22.6.18 第57回国立大学図書館協会総会(於 北海道)

### ◆学内

- 22.5.21 平成22年度第1回附属図書館運営委員会
- 22.5.26 平成22年度第1回附属図書館運営委員会植物  
研分館分科会
- 22.7.15 平成22年度第1回附属図書館運営委員会鹿  
田分館分科会
- 22.7.28 平成22年度第2回附属図書館運営委員会

## 研修

- 岡山大学事務系新任職員研修  
参加者 田中 智、藤井 香子(22.4.26～28)
- 新任管理職研修  
参加者 片山 淳、臼井 克巳(5.7)
- 安全衛生集中講習会  
参加者 片山 淳、脇本敏郎(5.13,14)
- 平成22年度図書館業務講習会(岡山県図書館協会)  
参加者 田中 智(6.7)
- 第6回国立大学図書館協会マネジメントセミナー  
参加者 片山 淳、大元 利彦(6.19)
- ライブラリー・コネクト・ワークショップ2010  
参加者 山田 智美(8.27)
- 平成22年度目録システム講習会雑誌コース  
参加者 田中 智(9.1～3)
- 第1回男女共同参画に関する管理職セミナー  
参加者 片山 淳、臼井 克巳、大元 利彦(9.10)
- メンタルヘルス クライシスマネジメント研修会  
参加者 片山 淳、大元 利彦(9.14)
- 軽井沢 DRF 技術ワークショップ  
参加者 大園隼彦(9.15～18)
- 国立大学図書館協会近畿地区協会セミナー  
「変容する大学図書館」  
参加者 遠矢 厚志(9.16)
- 業務改善研修  
参加者：森谷めぐみ、川上研三(9.15～16)
- 平成22年度図書館等著作権実務者講習会  
参加者 中山 千佳子、藤井 香子(9.28～30)

## 編集委員会から

図書館では様々なサービスが随時更新されています。今回、貸出中図書予約サービスと現在借りている本の照会ができるようになりました。また、Read Me! で紹介されているロアルド・ダールコレクションが全巻配架されています。チャーリーとチョコレート工場(原題:チョコレート工場の秘密)など、楽しい本がたくさんありますので、ぜひ読書の秋のおともにお役立てください。

岡山大学附属図書館報「楳」 No.51 平成22年10月1日

発行人 片山 淳 編集 広報誌編集委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1-1 電話 086-252-1111

ホームページ URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>